

# ■キャラクター設定

【響 ユウト】 男性。17歳。アニメの主人公。

## ◆概要

この物語の主人公。レイヤードが普及した社会に生きる高校生。表立っては扱えないような刺激の強いコンテンツで溢れた非公式コミュニティ「ULA渋谷」の管理人でもある。

徹底的な個人主義で、悪く言えば人に関心がない。「人の価値観を他人が否定する権利はない」というのがモットー。人になにかを押しつけるのも押しつけられるのも嫌い。そのことから人と深く付き合うのも苦手。本当の意味での友達はいない(表面上絡んでいる仲の良い人間はいる)。

渋谷区の高校に通っており、現在二年生。しかし学校はサボリ気味。頭が悪いわけではないが、勉強しないので成績は悪い。小さい頃から父親の研究を間近で見えてきて、その資料なども目にする機会が多かったこともありプログラミングの知識は人並み以上にある。

【イオン＝ミルナ】 女性。外見年齢15歳前後。ゲームのヒロインで、ゲーム主人公専用のACT※1。

## ◆概要

主人公(ゲームのプレイヤー)の元に現れたActだが、DLの過程で出自を完全に思い出せなくなっており、主人公もなぜ彼女がActになったのか、当初はわからない。

その正体はネットに広がる「どこかから落ちてきて、物語を動かす美少女」という概念そのものが、形を得てActになった存在。そのため、様々なヒロインキャラクターのオリジンに近い存在、ヒロイン・オブ・ヒロインであり、彼女自身もそうあろうとする。

知性は有しているが、出自の欠如に加えて情緒の表現手段もかなり欠如しており、丁寧だが非常に機械的。勘違いも多いが、好奇心は他のActと比べ並外れて強い。「使用者を物語の主役にする」というActとしての本能に抗えないため、主人公には社会を救う英雄的な行動を取るよう促し、勝手にトラブルシューター業の請け負いまで行うなど、強引なトラブルメーカー。物語が進むにつれて会話のパターンは増え、従来の人工無能のように客観的な人間性は増していく。

※1:ACT(アクト)

あらゆるキャラクターのイメージが、Layeredの技術によってAR上の人工知能という形で再現されたパーソナルアシスタント。Layered技術が浸透した社会の象徴であり、「人・モノ・キャラ」の関係を拡張するためのインターフェースである。